

## 雨乞岳道迷い(2012年9月)

鈴鹿スカイライン武平峠～雨乞岳～杉峠～御在所～武平峠というルートを計画。しかし、途中で、地図とコンパスを落とし、来た道を雨乞岳に戻るよりも、10回は登ったことのある御在所へ向かうことを決断。上水晶から国見に向かうところで道しるべを見失い、下流へ下る。暗くなる道を歩くのを諦め、ビバークし、翌日、羽鳥峰～朝明溪谷へ辿り着く。自宅に電話したときは、捜索隊が出動する寸前であった。



## 解説

スピード登山を狙い、軽量化したため武平峠～雨乞岳間は、体調も良く快調。雨乞岳～杉峠～御在所の間で地図とコンパスを落とすが、来た道に戻らず、更に進んでしまった。ここがターニングポイントであった。そして、道迷いの心理がここにある。登山道から外れていないものの、どこを歩いているのかわからない。それでも進んでしまう。何とかなるだろう精神が働く。

そして、台風が近づいてくる情報が不安を増長し、体力の低下が更に輪をかける。暗くなる前にビバークポイントを探し、体力の低下を防いだ。キャンプの準備ができ、辺りを歩くと『羽鳥峰へ』の標識を見つけ、以前、釈迦ヶ岳の下山ルートで通ったことがあった峰であることが確認できた。明日はこの峰に登って帰る事を誓ったに違いない。夜中に何度も起きて家族の事を思うと泣けてきた。

さて、雨乞岳、御在所岳の概念図を思い出してもらいたい。雨乞岳、御在所岳のほぼ中央を北側を下流に神崎川が流れている。つまり、神崎川本流を上流から下流に歩くとして、向かって右側(東側)へ登れば、御在所岳～釈迦ヶ岳の稜線が伸びていると予想したい。すると、脱出も「根の平峠」、「根の平峠と羽鳥峰間の峠(朝明溪谷へ道は続いている)」の2か所が浮上し、脱出のチャンスがあった。(もちろん登山道歩く。)

地図とコンパスを持たない場合、事前に頭の中に入れてある概念図が生死を分けると言えよう。概念図は大切であることを思い出す事例となった。